

次号予告

特集／難病のリハビリテーション

神経難病の在宅ケアの条件……………	東京都神経病院	川村 佐和子
難病患者に対する理学療法士の役割……………	東京都神経病院	池田 誠
難病患者に対する作業療法士の役割……………	東京都神経病院	市川 和子
脊髄小脳変性症のリハビリテーション……………	奈良医科大	真野 行生
教材としての自分……………	熊本リハビリ学院	古川 昭人

とびら

講座 老人

8. 老人福祉の現状と展望……………	同志社大学	小倉 襄二
障害児と母子関係		
4. 精神薄弱児における母子関係……………	弘済学園	飯田 雅子
プログレス 最近の筋弛緩剤の現状……………	都養育院	名倉 博史・他
リハビリテーション・インフォメーション		

病院精神医学会……………	三枚橋病院	広田 伊蘇夫
日本精神科看護技術協会……………	事務局長	小林 二郎

あんてな 障害者インターナショナル (DIP) の結成—

世界評議会 (東京) 開催……………	八代英太室	久保田 哲
--------------------	-------	-------

資料 第17回理学療法士・作業療法士国家試験—模範解答

編集後記

脳卒中のリハビリテーションにおいて作業療法士や理学療法士の関与する面が益々広くなる一方であると同時に従来は助からなかった重症の患者も救命が可能となり対処する内容も複雑化している。今回の脳卒中の特集はかなり広範囲をカバーするよう考えられている。“脳卒中の手術と残存機能”では手術の適応と可能性が論じられ最近20年の著しい進歩が感じられると同時に今後益々リハビリテーションの対象となるケースの増大が予測される。

“日本語の失語症”はユニークである。日本語は漢字、カナ、平ガナがあり世界でも珍しい言語の形態を持っているし、日本語を母国語とする患者に対応する機会の多い我々にはまたとない貴重な参考文献となるであろう。神経心理学的にさらに今後のこの分野の研究が待たれる。

成人片麻痺の上肢に関する治療を作業療法と理学療法の視点より論じて戴いたがこの分野は新卒の方々にとってもかなり経験のある方々にとっても永遠の課題である。また失行・失認を伴う患者の作業療法も参

考になる点が多い。たまたま脳卒中の特集にとびらが“高齢化社会に向けて”と講座で“高齢者の就労”が同時に集録されて特集の内容が豊富になった感がある。脳卒中患者の再就労は身体障害の中でも困難な部類に属し、理学療法士、作業療法士もジレンマに陥る事が多いであろう。

情報として義肢協会、義肢装具技術者協会、理学療法士・作業療法士の養成校の沿革概要が含まれ大変豊富な号になっているのは慶ばしい。

最近では医師にも言える事であるが理学療法士、作業療法士も量より質の時代が来ている。特に養成校のみ増えて教師の内容が問題である間は職種の将来を考える時に不安を感じる。問題はあってもまだナースの養成の方がシステム化されているようである。益々この雑誌が一定のレベルを維持する使命をおびているような感じさえるこの頃である。読者の方々の御意見、御希望等々を是非編集部まで御送り戴きたい。

(荻島 秀男)

<編集顧問>

天 児 民 和
九州労災病院名誉院長

五 味 重 春
埼玉県障害者リハビリセ
ンター所長

砂 原 茂 一
国立療養所東京病院名誉院長

津 山 直 一
東京大学教授・整形外科

水 野 祥太郎
川崎リハビリ学院長
(五十音順、以下同じ)

<編集委員>

上 田 敏
東大リハビリ部

荻 島 秀 男
ペインリハビリテーシ
ョンクリニック高島平
整形外科

大喜多 潤
兵庫県リハビリセンター

寺 山 久美子
都心身障害者センター

富 岡 詔 子
加納岩総合病院

奈 良 勲
金沢大学医療技術短大

福 屋 靖 子
筑波大学

松 村 秩
都養育院リハビリ部

<編集同人>

安 達 克 己

池 田 俊 雄

伊 東 元 夫

宇都宮 初 幸

大 丸 翼

鎌 倉 矩 子

紀 伊 克 昌

木 村 信 子

駒 沢 治 夫

佐 藤 智 明

嶋 田 明 子

鈴 木 昌 家

関 橋 正 明

高 橋 久 隆

中 屋 長 隆

橋 元 隆

藤 沢 しげ子

矢 谷 令 子

山 下 隆 昭

(担当 細田・西塚)